



2. けいれん

次のうち、どの症状が見られますか？

- けいれんが5分以上続く
- けいれんが止まっても意識がはっきりしない(視線が合わない、お父さん・お母さんがわからない)
- 何度も繰り返しけいれんが起こる
- 唇の色が紫色で、呼吸が弱い

1つでも「はい」がある



救急車を呼ぶ!



すぐに受診

通常の診療時間内に受診

- はじめてのけいれん
- けいれん時、体温が38℃以下であった
- 生後6ヵ月未満あるいは6歳以上
- けいれんが左右対称でない
- 吐いたり、おもらしをしたりする
- 最近、頭を激しくぶつけた

- 2度目のけいれんで様子がわかっているとき
- けいれんかどうか、はっきりしないとき(寒気の震えは意識があり、呼ぶと返事がある)
- 大泣きしてのけいれんで、すぐ普通の状態に戻る



家庭での対応

- ◆ついでに動転してしましますが、あわてずにしっかり様子を観察しましょう
- ◆吐く場合があるので、顔を横に向け、衣服をゆるめる
- ◆体を揺すったり、叩いたりしないように
- ◆口の中に指や物を入れてはいけません(舌をかむことはまずありません)



その震えは、けいれん? 悪寒?

一般的に「けいれん」とは、体全体や体の一部が、つっぱったり、ピクピクしたり、脱力する状態のことです

ここでは、さらに眼球が上を向いたり焦点が合わなくなり、意識がなくなり、息も一時的に止まり、顔色が悪くなるような状態を想定しています

一方、体が小刻みに震えているものの、意識もあり、息もしていて、顔色も悪くなければ、それは「悪寒」でしょう



観察のポイント (医師に伝えること)

- けいれんが何分続いたか時間を計りましょう
- 体の様子を観察しましょう
 - ▶手足の動きは? 左右対称ですか?
 - ▶目は開いていますか? 瞳の位置はどこですか?
 - ▶顔・唇の色は?
- 体温を測りましょう
- 呼んで反応しますか?
- けいれんが治まって、泣きましたか? 眠りましたか?



ただし症状が大きく変わったら、すぐに医療機関へ